

2 1 7

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第2回です。

かくして10人が実に10レベルに分かれるクラスとの、長い受験道が始まりました。

TOPで意識しているのは、時間中全員が頭を使い続ける授業です。挙手指名は上位生の特権ではありません。私や田宮の解説を待つのではなく、全員が主役となって頭をフル回転させていきます。とはいえ、前述した通りそれは簡単な営みではありません。

そこで問われるのが担当の力量です。まずは導入で全員が納得理解できる解説をする。分かりやすさだけでなく、次に教えること、生徒が曲解しやすい落とし穴、そんな全てを予測し、合理的論理的に話を展開します。

そして次に、最も真価が問われるのが誤答への対処です。私たちの予測を越えて発生する生徒の誤解や誤答に対して、瞬時に反応し疑問が氷解

する最高の説明をする。上位生の別解にはそれを越える技術や思考を見せる。そのダイナミズムこそが TOP の授業の醍醐味であり、TOP の生徒が授業を楽しんでやまない最大の要因だと思います。(あと笑いをふんだんに盛り込んだ巻き込み方ももちろん大きな特色です。)

そのようにして下位も置いていかず、上位生の思考も刺激し続ける授業をいつも志しています。

それでも、6期生を全員巻き込むのは大変な工夫を要しました。上位生を満足させること以上に、下位生を同じ土俵に乗せるのは並大抵なことではありませんでした。

けれど、ここにこだわり続けたことは生徒たちだけでなく、私たちにも大きな成長と自信をもたらしてくれました。

そして彼らにはそれを可能にするキャラクターがあったのです。

(次回につづく)

2020年9月5日

大井 雄之